

教養科目（令和5年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	資格		概要									
								教職	食品衛生監視員										
基盤教育群	基礎力養成	60010 基礎ゼミナール	①	15	1	前期	安部 貴洋 井間眞理子 大益 史弘 加藤 守匡 金谷 由希 北林 蒔子 鈴木 美穂 沼山 博 南 育子												
		60020 キャリアデザイン									①	8	1	前期	後藤 和也				
		地域学									60111 山形の食と歴史	②	15	1	前期	青木・角屋			
		外国語									60210 英語Ⅰ	①	15	1	前期	阿部 隆夫			クラス別
											英語Ⅱ	①	15	2	前期	石田 陽子			
		情報処理									60230 英会話Ⅰ	①	15	1	後期	ジェンクス,ブライアン	○		
											英会話Ⅱ	1	15	2	後期	ジェンクス,ブライアン	○		
	60310 情報基礎		②	15	1	前期	小池 隆太												
	保健体育	60320 基礎情報処理演習	1	15	1	前期	伊豆田義人	○											
		60330 応用情報処理演習	1	15	1	後期	伊豆田義人	○											
60410 体育理論		①	15	1	前期	加藤 守匡	○												
教養教育群	人間と文化・社会	60420 体育実技Ⅰ	1 } ①	15	1	後期	加藤 守匡	}	①										
		体育実技Ⅱ									1	15	2	前期	加藤 守匡				
		60510 心理学	②	15	1	後期	沼山 博	○		短大と合同授業									
		コミュニケーション論	②	15	2	前期	沼山 博												
		60530 社会学	2	15	1・2・3・4	前期	中川 恵												
		60540 教育学	2	15	1・2・3・4	前期	安部 貴洋												
		60550 法学（日本国憲法）	2	15	1・2・3・4	後期	堀田 学												
	60561 経営学概論	2 } ②	15	1・2・3・4	後期	高浜 快斗													
							異文化理解				2	15	3・4	前期	村瀬 桃子				
	国際関係論	2	15	3・4	後期	堀田 学			短大と合同授業										
人間と自然	60611 微生物学	②	15	1	後期	熊田 薫		○	集中										
	60620 自然科学Ⅰ（化学）	2	15	1・2	前期	大益 史弘		○											
	60630 自然科学Ⅱ（生物学）	2	15	1・2	前期	佐塚 正樹													
	60640 自然科学演習	1	15	1	後期	大益 史弘		○											
	60650 統計学	2	15	1	前期	伊豆田義人													

※ 「○数字」は必修単位、「} ○」は選択必修科目

※ 2年次以降の担当者は令和5年度のものであり、変更になる場合がある

教養科目（令和4年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	資格		摘要	
								教職	食品衛生監視員		
基盤教育群	基礎力養成	基礎ゼミナール	①	15	1	前期	安部 貴洋 井間真理子 大益 史弘 加藤 守匡 金谷 由希 北林 蒔子 鈴木 美徳 沼山 博 南 育子				
		〃									
		〃									
		〃									
		〃									
		〃									
		〃									
		〃									
		キャリアデザイン	①	8	1	前期	後藤 和也				
	地域学		山形の食と歴史	②	15	1	前期	青木・角屋			
外国語	60220	英語Ⅰ	①	15	1	前期	阿部 隆夫			クラス別	
		英語Ⅱ	①	15	2	前期	石田 陽子				
	60240	英会話Ⅰ	①	15	1	後期	ジェンクス,ブライアン	○			
		英会話Ⅱ	1	15	2	後期	ジェンクス,ブライアン	○			
情報処理		情報基礎	②	15	1	前期	小池 隆太				
		基礎情報処理演習	1	15	1	前期	伊豆田義人	○			
		応用情報処理演習	1	15	1	後期	伊豆田義人	○			
保健体育	60430	体育理論	①	15	1	前期	加藤 守匡	○			
		体育実技Ⅰ	1	15	1	後期	加藤 守匡	①			
		体育実技Ⅱ	1	15	2	前期	加藤 守匡				
教養教育群	人間と文化・社会	60520 心理学	②	15	1	後期	沼山 博			短大と合同授業 経営学概論で読替	
		60530 コミュニケーション論	②	15	2	前期	沼山 博				
		60540 社会学	2	15	1・2・3・4	前期	中川 恵				
		60540 教育学	2	15	1・2・3・4	前期	安部 貴洋				
		60550 法学（日本国憲法）	2	15	1・2・3・4	後期	堀田 学	○			
		60560	企業論	2	15	1・2・3・4	後期	高浜 快斗			
			異文化理解	2	15	3・4	前期	村瀬 桃子			
		国際関係論	2	15	3・4	後期	堀田 学			短大と合同授業	
	人間と自然	60620	微生物学	②	15	1	後期	熊田 薫		○	集中
			自然科学Ⅰ（化学）	2	15	1・2	前期	大益 史弘		○	
自然科学Ⅱ（生物学）			2	15	1・2	前期	佐塚 正樹				
自然科学演習			1	15	1	後期	大益 史弘		○		
統計学			2	15	1	前期	鈴木 久美				

※ 「○数字」は必修単位、「} ○」は選択必修科目

※ 3年次以降の担当者は令和5年度のものであり、変更になる場合がある

教養科目（令和3年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	資格		摘要
								教職	食品衛生監視員	
基盤教育群	基礎力養成	基礎ゼミナール	①	15	1	前期	安部 貴洋 井間真理子 大益 史弘 加藤 守匡 金谷 由希 北林 蒔子 沼山 博			
		〃								
		〃								
		〃								
		〃								
		〃								
		キャリアデザイン	①	8	1	前期	後藤 和也			
	地域学	山形の食と歴史	②	15	1	前期	青木・角屋			
	外国語	英語Ⅰ	①	15	1	前期	阿部 隆夫			
		英語Ⅱ	①	15	2	前期	石田 陽子			
英会話Ⅰ		①	15	1	後期	ジエングス, プライソン	○		クラス別	
英会話Ⅱ		1	15	2	後期	ジエングス, プライソン	○			
情報処理	情報基礎	②	15	1	前期	小池 隆太				
	基礎情報処理演習	1	15	1	前期	伊豆田義人	○			
	応用情報処理演習	1	15	1	後期	伊豆田義人	○			
保健体育	体育理論	①	15	1	前期	加藤 守匡	○			
	体育実技Ⅰ	1	15	1	後期	加藤 守匡	①			
	体育実技Ⅱ	1	15	2	前期	加藤 守匡				
教養教育群	人間と文化・社会	心理学	②	15	1	後期	沼山 博			
		コミュニケーション論	②	15	2	前期	沼山 博			
		60530 社会学	2	15	1・2・3・4	前期	中川 恵			
		60540 教育学	2	15	1・2・3・4	前期	安部 貴洋			
		60550 法学（日本国憲法）	2	15	1・2・3・4	後期	堀田 学	○		短大と合同授業 経営学概論で読替
		60560 企業論	2	15	1・2・3・4	後期	高浜 快斗			
		60570 異文化理解	2	15	3・4	前期	村瀬 桃子			
60580 国際関係論	2	15	3・4	後期	堀田 学			短大と合同授業		
人間と自然	微生物学	②	15	1	後期	熊田 薫		○	集中	
	自然科学Ⅰ（化学）	2	15	1・2	前期	大益 史弘		○		
	自然科学Ⅱ（生物学）	2	15	1・2	前期	佐塚 正樹				
	自然科学演習	1	15	1	後期	大益 史弘		○		
	統計学	2	15	1	前期	鈴木 久美				

※ 「○数字」は必修単位、「} ○」は選択必修科目

※ 4年次の担当者は令和5年度のものであり、変更になる場合がある

教養科目（令和2年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	資格		摘要
								教職	食品衛生監視員	
基盤教育群	基礎力養成	基礎ゼミナール	①	15	1	前期	安部 貴洋 井間真理子 江口 智美 大益 史弘 加藤 守匡 金谷 由希 北林 蒔子 沼山 博			
		〃								
		〃								
		〃								
		〃								
		〃								
		〃								
		キャリアデザイン	①	8	1	前期	後藤 和也			
	地域学	山形の食と歴史	②	15	1	前期	青木・角屋			
	外国語	英語 I	①	15	1	前期	阿部 隆夫			クラス別
英語 II		①	15	2	前期	小林 亜希				
英会話 I		①	15	1	後期	ジエソングス、フライソン	○			
英会話 II		1	15	2	後期	ジエソングス、フライソン	○			
情報処理	情報基礎	②	15	1	前期	小池 隆太				
	基礎情報処理演習	1	15	1	前期	伊豆田義人	○			
	応用情報処理演習	1	15	1	後期	伊豆田義人	○			
保健体育	体育理論	①	15	1	前期	加藤 守匡	○			
	体育実技 I	1	15	1	後期	加藤 守匡	} ①			
	体育実技 II	1	15	2	前期	加藤 守匡				
教養教育群	人間と文化・社会	心理学	②	15	1	後期	沼山 博	○		短大と合同授業 経営学概論で読替
		コミュニケーション論	②	15	2	前期	沼山 博			
		60530 社会学	2	15	1・2・3・4	前期	中川 恵			
		60540 教育学	2	15	1・2・3・4	前期	安部 貴洋			
		60550 法学（日本国憲法）	2	15	1・2・3・4	後期	堀田 学			
		60560 企業論	2	15	1・2・3・4	後期	高浜 快斗			
		60570 異文化理解	2	15	3・4	前期	村瀬 桃子			
	60580 国際関係論	2	15	3・4	後期	堀田 学				
人間と自然	微生物学	②	15	1	後期	熊田 薫	○		集中	
	自然科学 I（化学）	2	15	1・2	前期	大益 史弘	○			
	自然科学 II（生物学）	2	15	1・2	前期	佐塚 正樹				
	自然科学演習	1	15	1	後期	大益 史弘	○			
	統計学	2	15	1	前期	鈴木 久美				

※ 「○数字」は必修単位、「} ○」は選択必修科目

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
安部・井間・大益・加藤・金谷・北林・鈴木・沼山・南			
基盤教育群	基礎力養成		授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	テーマ：大学での生活や学習に慣れる 到達目標：1) 学科内における人間関係を構築し、生産的に議論できる雰囲気を作る。 2) テーマを設定して、情報収集し、レポート作成することができる。 3) プレゼンテーション資料を作成し、プレゼンテーションすることができる。 4) 学内資源の利用法を理解できる 5) 大学の講義の受け方やノートの取り方、学習の仕方について自分の方針を持てる。 6) 専門を支える教養を高める。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	リレーションづくり ゼミでの人間関係を作る	
	第3回	大学の講義とノートテイキング(1)	
	第4回	大学の講義とノートテイキング(2)	
	第5回	研究テーマに即したレポート作成(1) 研究テーマ設定のための情報収集・図書館ツアー	
	第6回	研究テーマに即したレポート作成(2) レポート作成のための情報収集	
	第7回	研究テーマに即したレポート作成(3) レポート作成	
	第8回	研究テーマに即したレポート作成(4) レポート作成と推敲	
	第9回	専門を支える教養に関心を持つ(1) ゲストスピーカーによる講話	
	第10回	専門を支える教養に関心を持つ(2) ゲストスピーカーによる講話	
	第11回	専門を支える教養に関心を持つ(3) ゲストスピーカーによる講話	
	第12回	プレゼンテーション資料の作成(1) プレゼンテーション資料の作成	
	第13回	プレゼンテーション資料の作成(2)	
	第14回	プレゼンテーションの練習	
	第15回	プレゼンテーションとディスカッション	
成績評価・方法	授業への取り組み20%、レポート40%、プレゼンテーション40%		
授業概要	次の①～④を行う。①学生同士・教員の交流を深め、学生の自覚と学習意欲を高める。②少人数クラスによるゼミ形式とし、ノートの取り方、レポートの書き方、図書館の使い方、文献検索の方法等のスタディスキルを習得する。③論理的思考や発表技法を学ぶためプレゼンテーションやディスカッションを行い、コミュニケーション能力を身に付ける。④関連領域のゲストスピーカーによる講話を聴き、専門を支える教養を高めることに関心を持つ。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	課題レポート、プレゼンテーション用の資料の作成を行うこと。講義以外でもゼミ生を中心に、学生同士で積極的にかかわりを持ち、互いに支え合うようにすること。		
教科書	適宜資料を配布する。		
参考文献	学習技術研究会編「知へのステップ」（くろしお出版）		
履修条件	伊豆田義人先生「基礎情報処理演習」を着実に履修し、ワープロやプレゼンテーション資料作成など必要なスキルを身につけておくこと。		
備考	レポートやプレゼンテーション・データの提出締切を守る。ゼミごとの活動の詳細についてはゼミ担当教員より指示を受けること。新型コロナウイルス対策、ゲストスピーカーの都合等により授業計画に変更が生じる場合があるので、連絡に注意すること。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
後藤 和也			
基盤教育群	基礎力養成		授業形態：講義・演習
授業のテーマ及び到達目標	皆さん自身の「キャリア」について、「自分を知る」をテーマに学修します。労働社会では、「コミュニケーション能力」と称される汎用的なスキル（ジェネリック・スキル）が求められる傾向にあります。みなさんが管理栄養士として就職した後も、職場内で良好な人間関係を築き上げることは、専門職としてキャリアを積む中で欠かせません。授業をとおして、基礎的・汎用的能力の育成を図りたいと思います。併せて、今後の自分なりのキャリアについて考えてみましょう。当授業では「どのような経験や活動が自身のジェネリック・スキルの伸長に関係しているかを言葉や文章で説明できる」ことを到達目標とします。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 コミュニケーション能力 第3回 自己効力・モチベーション 第4回 チーム・リーダーシップ 第5回 意思決定 第6回 キャリアにおける偶然性 第7回 メンター・発達のネットワーク 第8回 目標設定、授業のまとめ		
成績評価・方法	授業への貢献度（議論の参加態度やグループ内での役割、授業中の発言・質疑の内容、授業の感想内容の質）30%、最終レポート等の記載内容等70%により評価する		
授業概要	社会的・職業的自立に向けて有用なジェネリックスキルについてご紹介します。ただ話を聞くだけでなく、自分自身の経験を振り返ったり、自身の考えを文章にしたりする機会が多い授業となります。		
実務経験及び授業の内容	人事・採用・人材育成等の実務経験を持つ教員が、その知見を活かし学生におけるキャリアを支援するための授業を行う。		
時間外学習	毎回の授業で取り上げる問題について、自分の見方・考え方を整理すること。		
教科書	教科書は指定せず、適宜プリントを配布します。		
参考文献			
履修条件			
備考	・新型コロナウイルス感染症の感染状況等により、授業の実施方法に変更が生じる場合があります		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
青木 昭博・角屋 由美子			
基盤教育群	地域学		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>1 山形県は大きく4つの地域に分かれ、それぞれ特徴的な食文化が存在する。多彩で豊かな在来作物や伝統野菜、様々な行事に伴う郷土料理など、地域に根ざした食の文化を学ぶとともに、山形県の食生活の現状、並びに地産地消推進についての理解も深める。また、農業体験を通し、農産物を食生活の中に多様に活用できる人材を育てる。</p> <p>2 山形県および米沢市の歴史と文化について、その概要を画像や資料などから学び、地域の特色を理解すると共に、地域に対する興味や愛着心を深める。</p> <p>3 上杉鷹山の藩政改革から、地産地消の取り組みや「かてもの」を紹介し、先人の知恵を学ぶ。</p>
授業計画	<p>第1回 山形の自然と風土（きてけろくん・校歌と県民歌・庄内と内陸）（担当：青木）</p> <p>第2回 原始・古代・中世の山形（担当：青木） 縄文の女神・彩色土器・山形の古墳と荘園・山形の仏像文化</p> <p>第3回 特色のある山形県の食材と料理（置賜・村山地方）（担当：角屋）</p> <p>第4回 農産物の栽培（担当：角屋） ※天候により入れ替えになる可能性あり</p> <p>第5回 特色のある山形県の食材と料理（庄内・最上地方）（担当：角屋）</p> <p>第6回 他県の郷土料理と食材（グループ発表）①（担当：角屋）</p> <p>第7回 他県の郷土料理と食材（グループ発表）②（担当：角屋）</p> <p>第8回 山形の戦国時代と近世の諸相（担当：青木） 最上義光と伊達政宗・最上川と紅花・出羽三山・奥の細道</p> <p>第9回 直江兼続と城下町米沢（城下町米沢の構造と特色・街並みの推移）（担当：青木）</p> <p>第10回 上杉鷹山と米沢藩の改革（担当：青木） （なせばなる・漆の実のみのる国・伝国の詞）</p> <p>第11回 山形県の成立と近代山形（担当：青木） （土木県令・東洋のアルカディア・米沢工業高等学校）</p> <p>第12回 古代・中世の山形の食文化（担当：角屋）</p> <p>第13回 現代の山形の姿と課題、そして未来（担当：青木） 「つや姫」と「雪若丸」・山形新幹線・少子高齢化</p> <p>第14回 「かてもの」近世に見る食の役割（担当：角屋）</p> <p>第15回 農業体験 収穫をとおして地産地消を学ぶ（担当：角屋）</p>
成績評価・方法	<p>山形の食（担当角屋）：試験40%、授業への参加度（発言他）10%</p> <p>山形の歴史（担当青木）：レポート30%、授業への参加度（ミニレポート）20%</p>
授業概要	山形県の歴史を学び、地域の特性を理解するとともに、人々の食文化が時代により、また地域により、どのように育まれたかを考える。学生自身の出身地などを見直し、比較する意見交換や実際の農業体験を通して、地域の食文化に対する関心を深める。
実務経験及び授業の内容	<p>（青木）長年、米沢市史編さん室や市立米沢図書館（郷土資料担当）に勤務。山形県の食と歴史では、歴史分野を担当し、写真や表等の多くのスライドを用いた授業を行う。</p> <p>（角屋）米沢市上杉博物館学芸員として、担当した展覧会、参加した共同研究等から「食」に関わる部分を題材として、講義のほか畑体験やグループ発表などの授業を行う。</p>
時間外学習	参考文献を参照し、復習して授業内容を定着させる。
教科書	教科書はなし。適宜資料を配布する。
参考文献	<p>『「かてもの」をたずねる』高垣順子著 『農と食』山形県検定テキスト</p> <p>『山形の郷土料理』生活改善実行グループ連絡研究会編</p> <p>『山形県の歴史散歩』（山川出版社）『代表的日本人』（岩波文庫）</p>
履修条件	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
阿部 隆夫			
基盤教育群	外国語		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	三個の主題に沿って進める。第一は、自然科学関係の英語の文章を効率的に読みこなす練習をすることである。第二は、英語圏を中心に異文化に関する資料を読みながら語彙を増やすことである。第三には、今後日本で起こりうる異文化間の交流に必要なコミュニケーション技術を習うことである。		
授業計画	第1回	BH Unit 1; 異文化 Case 15-16; TOEIC導入 BH導入; 英語における呼称の文化的問題; TOEIC導入	
	第2回	BH Unit 1; TOEIC Part 1 Unit 1 聞き取り練習; TOEIC Part 1, 写真問題攻略方法解説	
	第3回	異文化 Case 17-18; TOEIC Part 2 知らない人と話す; TOEIC Part 2, 応答問題解説	
	第4回	BH Unit 2; TOEIC Part 2 Unit 2 聞き取り練習; TOEIC Part 2 応答問題練習	
	第5回	異文化 Case 19-20; TOEIC Part 3 英語圏でのあいさつとスピーチ; TOEIC Part 3 会話問題解説	
	第6回	BH Unit 3; TOEIC Part 3 Unit 3 聞き取り練習; TOEIC Part 3 会話問題練習	
	第7回	異文化 Case 21-22; TOEIC Part 4 パーティー・会食の英語コミュニケーション文化; TOEIC Part 4 アナウンス問題解説	
	第8回	BH Unit 4; TOEIC Part 4 Unit 4 聞き取り練習; TOEIC Part 4 アナウンス問題解説	
	第9回	異文化 Case 23-24; TOEIC Part 4 贈り物、お礼の英語習慣; TOEIC Part 4 アナウンス問題練習	
	第10回	BH Unit 5; TOEIC Part 5 Unit 5 聞き取り練習; TOEIC Part 5 文法問題攻略方法解説	
	第11回	異文化 Case 25-26; TOEIC Part 5 依頼、電話の英語文化; TOEIC Part 5 文法問題解説	
	第12回	BH Unit 6; TOEIC Part 6 Unit 6 聞き取り問題; TOEIC Part 6 文章完成問題解説	
	第13回	異文化 Case 27-28; TOEIC Part 7 招待する・招待される英語圏の習慣; TOEIC Part 7 読解問題攻略方法	
	第14回	BH Unit 7; TOEIC Part 7 Unit 7 聞き取り練習; TOEIC Part 7 読解問題解説	
	第15回	異文化 Case 29-30; TOEIC Part 7 複雑状況コミュニケーションと単純状況コミュニケーション; TOEIC Part7 読解問題練習	
成績評価・方法	小テスト30%、期末試験40%、提出課題15%、復習音読15% 他、TOEIC公式会場テストを受験し一定の点数を取得した場合は努力点として加味する		
授業概要	英語の社会言語文化を題材にしなが、聞く・話す・読む・書くという基本四技能に加え、それを統括する5番目の技能である異文化間コミュニケーション能力を養う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	隔週回で教室授業の開始時に書き取り試験 (dictation)を実施するので、教科書の本文を音声データを聞きながら正確に音読する練習が必要である。		
教科書	Toshiaki Nishihara, Better Health for Every Day (金星堂2014年)[上記BHと略記]; 阿部隆夫他著『42の事例から考察する異文化間英語コミュニケーション』(開拓社2020年) [または廉価版: タカオ・アベ『ピンときた! 納得の異文化間英語コミュニケーション』(開拓社2012年)] [「異文化」と略記]; 公式TOEIC Listening&Reading 問題集8 (TOEICと略記)		
参考文献			
履修条件			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
石田 陽子			
基盤教育群	外国語		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	(1) 健康や環境、身近な科学的な話題を扱った英文を読みながら、高校で学習していながらピンときていない英文法を復習する。(2) 基本的な語彙を品詞を意識しながら復習するとともに、簡単な科学的な語彙や表現を学ぶ。(3) 簡単なdictationを行い英語を聞く時間を持つ。(4) 社会人になっても英語を学び続けるヒントを見つける。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 Unit 1 Flowers Sweeten Up When They Sense Bees Bussing 関係代名詞・接続詞thatの省略</p> <p>第3回 Unit 2 Sorry the Mona Lisa Is Not Looking at You コロン、セミコロン、ダッシュ</p> <p>第4回 Unit 3 Nearly One-Third of Americans Sleep Fewer Than Six Hours Per Night 数字の読み方</p> <p>第5回 Unit 4 There's No Limit on Longevity, But Getting super Old Is Still Tough 数量表現1</p> <p>第6回 Unit 5 Chinese City Wants to Launch Fake Moon to Illuminate Its Streets 数量表現2</p> <p>第7回 Unit 6 Doctors "Grow" Ear for Transplant in Patient's Forearm 前置詞</p> <p>第8回 Unit 7 A German Grocery Chain Is Selling First-Of-Its-Kind "No-Kill" Eggs 動名詞・現在分詞</p> <p>第9回 Unit 8 Why Scientists Want to Engineer Spicy Tomatoes 複合形容詞</p> <p>第10回 Unit 9 Children Are Susceptible to Robot Peer Pressure 複合名詞1</p> <p>第11回 Unit 10 British Doctors May Soon Prescribe Art, Music, Dance, Singing Lessons 複合名詞2</p> <p>第12回 Unit 11 This Remote Control Vest Trains Rescue Dogs Using Flashlights 冠詞1</p> <p>第13回 Unit 12 Sans Forgetica Is the Typeface You Won't Forget 冠詞2</p> <p>第14回 Unit 13 How Fish Farms Can Use Facial Recognition to Survey Sick Salmon 接頭辞・接尾辞</p> <p>第15回 まとめ</p>
成績評価・方法	授業中に行う小テスト40%＋発表20%＋最終試験40%
授業概要	(1) 映像を見る。(2) 予習してきたdictationの解答と説明。(3) 予習の発表と語句や文法の説明。(4) 語句・文法の確認小テスト
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	①音声ファイルをダウンロードし、本文の音声を何度か聞く ②分からない語句は必ず辞書を調べて、本文の意味を考える。③意味を考えながら何度か音読する。④辞書で確認した語句は必ずノートに整理しておく。
教科書	Keiko Miyamoto, Science at Hand (金星堂) ISBN978-4-7647-4103-4 C1082 ¥2,100
参考文献	
履修条件	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
ジェニングス, ブライアン			
基盤教育群	外国語		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	このクラスでは、興味深いトピックについて学び、クラスメートとそれについて話し合います。その後、学んだトピックについて2つのプレゼンテーションをしてもらいます。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 オンライントピック 1</p> <p>第3回 オンライントピック 1</p> <p>第4回 オンライントピック 2</p> <p>第5回 オンライントピック 2</p> <p>第6回 トピック 3</p> <p>第7回 プレゼンテーション 1 の準備</p> <p>第8回 プレゼンテーション 1</p> <p>第9回 トピック 4</p> <p>第10回 トピック 4</p> <p>第11回 トピック 5</p> <p>第12回 トピック 5</p> <p>第13回 トピック 6</p> <p>第14回 プレゼンテーション 2 の準備</p> <p>第15回 プレゼンテーション 2</p>
成績評価・方法	プレゼンテーション1: 25%, プレゼンテーション2:25%, 参加:30%, 読解:20%
授業概要	学生は授業の前に配布資料をダウンロードし、その情報を確認します。それからクラスでこれらのフレーズを練習します。情報に関する5つの短いテストがあります。学生は英語での2分間の会話で構成される2つのスピーキングテストがあります。
実務経験及び授業の内容	山形大学での英会話の指導経験を生かし、面白いトピックを使って役に立つ英語のフレーズを授業に取り入れていきます。また、ペアで英語の会話を練習する機会を設けます。
時間外学習	学生は自分の家でクラスのフレーズを練習する必要があります。
教科書	無し。資料を配布します。
参考文献	
履修条件	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択
担当教員			
ジェニングス、ブライアン			
基盤教育群	外国語		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	このクラスでは、興味深いトピックについて学び、クラスメートとそれについて話し合います。その後、学んだトピックについて2つのプレゼンテーションをしてもらいます。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 オンライントピック 1</p> <p>第3回 オンライントピック 1</p> <p>第4回 オンライントピック 2</p> <p>第5回 オンライントピック 2</p> <p>第6回 トピック 3</p> <p>第7回 プレゼンテーション 1 の準備</p> <p>第8回 プレゼンテーション 1</p> <p>第9回 トピック 4</p> <p>第10回 トピック 4</p> <p>第11回 トピック 5</p> <p>第12回 トピック 5</p> <p>第13回 トピック 6</p> <p>第14回 プレゼンテーション 2 の準備</p> <p>第15回 プレゼンテーション 2</p>
成績評価・方法	プレゼンテーション1 25%、プレゼンテーション2: 25%、参加：30%、読解：20%
授業概要	学生は授業の前に配布資料をダウンロードし、その情報を確認します。それからクラスでこれらのフレーズを練習します。情報に関する5つの短いテストがあります。学生は英語での2分間の会話で構成される2つのスピーキングテストがあります。
実務経験及び授業の内容	山形大学での英会話の指導経験を生かし、面白いトピックを使って役に立つ英語のフレーズを授業に取り入れていきます。また、ペアで英語の会話を練習する機会を設けます。
時間外学習	学生は自分の家でクラスのフレーズを練習する必要があります。
教科書	無し。資料を配布します。
参考文献	
履修条件	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
小池 隆太			
基盤教育群	情報処理		授業形態：講義
授業のテーマ及び到達目標	<p>情報学の基礎理論を前提に、現代の情報化社会がどのようなシステムに支えられているのかを知り、さらに情報セキュリティや著作権をはじめとした知的財産権の概念と制度をあわせて理解することで、技術と制度の両側面から現代社会における「情報」の重要性を学ぶことをテーマとします。</p> <p>到達目標としては、ネットワークを含めたデジタル技術ならびに情報をめぐる諸制度について、実社会での活用と運用をめぐる課題を捉えることができる視点を養ってもらえればと考えています。</p>		
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン アナログとデジタル</p> <p>第2回 記号とコミュニケーション</p> <p>第3回 コンピュータと情報システムの歴史</p> <p>第4回 コンピュータの構造</p> <p>第5回 コンピュータとインターフェース</p> <p>第6回 コンピュータと記憶装置</p> <p>第7回 アルゴリズムとプログラミング、ネットワーク</p> <p>第8回 インターネットの歴史と仕組み</p> <p>第9回 移動体通信とソーシャルメディア</p> <p>第10回 情報セキュリティ</p> <p>第11回 個人情報の管理とメディアリテラシー</p> <p>第12回 著作権と著作者人格権</p> <p>第13回 著作権の権利制限と自由利用</p> <p>第14回 知的財産権と肖像権</p> <p>第15回 アクセシビリティと制度</p>		
成績評価・方法	課題（授業中に提出）50%、期末レポート50%		
授業概要	<p>本講義では、情報化社会に必要な情報処理技術の基礎知識を学び、情報システムの活用と情報の発信に求められる基本的な概念の習得をはかります。具体的には、デジタルデータとコンピュータの構造、情報システムとネットワーク、情報セキュリティ、メディアリテラシー、知的財産権・著作権の保護、個人情報の管理等について学ぶことで、技術的観点と制度的観点の双方から現代社会における情報システムの役割について理解することになります。</p>		
実務経験及び授業の内容	<p>第一種情報処理技術者（旧通商産業省）の国家資格を有し、プログラマ/システムエンジニアとしての実務経験があります。その経験を反映したシステムの解説を行います。</p>		
時間外学習	<p>私たちが社会生活において活用している各種のシステムや情報・知的財産権に関する制度について観察・解説してもらった課題を行います。本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用した課題やリアクションペーパーの提出によって、学修内容を深めてもらう予定です。</p>		
教科書	資料プリントを適宜配布します。		
参考文献			
履修条件			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
伊豆田 義人			
基盤教育群	情報処理		授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	本演習では、情報化社会に生きていくための必須の情報処理の基礎知識および必要不可欠な活用能力を身につける。具体的には、情報システムの使い方やインターネットによる情報収集、メールシステムの利用のほか、ブラインドタッチの基本や文書作成ソフト（ワード）、データ活用（表計算ソフト・エクセル）とプレゼンテーションソフト（パワーポイント）の活用方法を習得する。		
授業計画	第1回	学内情報システムの紹介と機器の使い方。個人Eメール等のネットワークシステムの設定等 ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。	
	第2回	ブラインドタッチの基本的なスキル取得。キーボードのホームポジション、上・下段の練習	
	第3回	文書作成－その1。ソフトの基本操作やデータの入力と書式の設定、文字のみの文書の作成	
	第4回	文書作成－その2。図形文書の基本的な事項。図形文書作成と編集。パンフレットの作成	
	第5回	文書作成－その3。表の作成・編集。文中の表、および表としてのページ。表を用いた文書	
	第6回	文書作成－その4。本と論文の原型。見出しや図表式の目次や索引、脚注等を有する文書	
	第7回	文書作成－その5。ビジネス文書の基本的な事項。種々のビジネス文書の作成、編集、管理	
	第8回	データ活用－その1。ソフトの基本操作。データの入力、表の作成や編集、書式の設定	
	第9回	データ活用－その2。計算式の挿入。四則演算や合計、平均などの基本的な数式の使い方	
	第10回	データ活用－その3。情報の参照。表間やファイル間のデータのやり取りと参照と処理	
	第11回	データ活用－その4。集計。大量の数字データに対する一元的なデータの集計やクロス集計	
	第12回	データ活用－その5。グラフによる情報の可視化。グラフの作成、編集と書式の設定	
	第13回	データ活用－その6。総合問題	
	第14回	プレゼンテーション。ソフトの基本的な操作やスライドの作成・編集・設定を学習	
	第15回	画像処理ソフトの基本。画像の加工、補正、編集、合成等について学習	
成績評価・方法	入力課題：25%。※未提出または未完成課題が一つ以上の場合、『入力課題=25%満点中0%』 授業課題：28%。まとめの課題：12%。期末課題：35%。 ただし、減点の対象： (1) 公欠以外の欠席や無断退室等 (2) 遅刻（出欠確認後） (3) 携帯電話等の無許可使用や授業とは関係のない活動 授業の進捗状況などにより評価方法が変更となる場合もある		
授業概要	授業でのタイピング訓練は最初の2回ほどのみで、それ以降は各自で放課後等の時間に与えられた長文を入力して宿題を提出する。実践的な問題を解きながら文書作成ソフトおよび表計算ソフトの活用方法を学習する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本科目では、1.5時間の事前学習、3時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている。ただし、この科目では社会で求められている様々なスキルの習得を目的としているのでこの合計時間は最低時間数である。		
教科書	指定しない（授業中に適宜資料を配布する）。その都度、授業内容に適した参考書を指定する。		
参考文献	初回に紹介する。		
履修条件			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択
担当教員			
伊豆田 義人			
基盤教育群	情報処理		授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	本演習では、統計学に基づくデータ分析の方法について学習する。統計分析ソフトを活用しながら確率論と統計検定について学ぶ。到達目標は情報の客観的に分析することでデータの処理および読み解く力を身につけることである。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、ソフト環境の整備 ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。</p> <p>第2回 確率論－基本</p> <p>第3回 確率論－確率変数</p> <p>第4回 確率分布・その1</p> <p>第5回 確率分布・その2</p> <p>第6回 統計学の基本・統計量・ヒストグラム等</p> <p>第7回 検定1：F-検定（等分散の検定）、t-検定（平均値の検定）－その1</p> <p>第8回 検定2：t-検定－その2</p> <p>第9回 検定2：t-検定－その3</p> <p>第10回 検定2：t-検定－その4</p> <p>第11回 検定3：ANOVA（分散分析法・多群の平均値の検定）－その1</p> <p>第12回 検定3：ANOVA（分散分析法・多群の平均値の検定）－その2</p> <p>第13回 検定3：ANOVA（分散分析法・多群の平均値の検定）－その3</p> <p>第14回 検定3：ANOVA（分散分析法・多群の平均値の検定）－その4</p> <p>第15回 検定4：X²適合度検定（比率の検定）、その他の検定</p>
成績評価・方法	<p>授業課題：40%。期末課題：40%。平常点：20%</p> <p>ただし、減点の対象： (1) 公欠以外の欠席や無断退室等 (2) 遅刻（出欠確認後） (3) 携帯電話等の無許可使用や授業とは関係のない活動 授業の進捗状況などにより評価方法が変更となる場合もある</p>
授業概要	毎回、事前学習用の課題等を与えるので、指示に従って予習と復習をする。授業では概説を行った後にソフトを使って課題を作成しながら、学習内容への理解を深める。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本科目では、2時間の事前学習、2.5時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている。ただし、今後の学習等でも必要になるスキルなので、この合計時間は最低時間数である。
教科書	指定しない（授業中に適宜資料を配布する）。その都度、授業内容に適した参考書を指定する。
参考文献	初回に紹介する。
履修条件	(1) 実践的に確率論と統計検定を学習したいという気持ち、または意欲を有すること。 (2) 受講期間中にパソコンと仲良くする、あるいはその努力をすること。
備考	

講義科目名称：体育理論（60410）

授業コード：60410

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
加藤 守匡			
基盤教育群	保健体育		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	体力の概念や運動への意思・意欲、日常生活における活動やスポーツが身体の発育や身体機能の維持・増進に与える役割を理解する。
授業計画	<p>第1回 日常の身体活動量、運動不足</p> <p>第2回 体力の構成要素、体力評価の方法</p> <p>第3回 発育発達と体力</p> <p>第4回 加齢と体力</p> <p>第5回 健康と体力</p> <p>第6回 各種運動におけるエネルギー供給</p> <p>第7回 運動前の準備と確認事項</p> <p>第8回 運動トレーニングに適切な運動負荷</p> <p>第9回 健康増進のための取り組み</p> <p>第10回 肥満、体重調節と運動</p> <p>第11回 疲労と体力</p> <p>第12回 軽運動及びストレッチング</p> <p>第13回 運動とメンタルヘルス</p> <p>第14回 学生生活と運動量、健康との関連</p> <p>第15回 生涯スポーツと健康</p>
成績評価・方法	テスト40%、レポート40%、態度（理由、報告のない欠席、積極性等）20%
授業概要	日常生活の活動やスポーツと体力・健康との関わりを学習し生涯に渡り活動的なライフスタイル構築の意義を学習する。
実務経験及び授業の内容	自治体での健康推進計画（米沢市、長井市）や介護保険運営協議会（米沢市）、認知症施策推進行動計画（山形県）、様々な自治体での運動教室やスポーツ指導、山形県スポーツ医科学推進会議委員、山形県トレーナー協会理事などでの経験を生かし体育理論の授業を行う。
時間外学習	授業を踏まえて資料等を読み直す。毎回の授業やノートやメモを整理する。
教科書	資料を適宜配布します。
参考文献	
履修条件	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
加藤 守匡			
基盤教育群	保健体育		授業形態：実習

授業のテーマ及び到達目標	実技を通じて、自ら実践していく能力を習得する。また、学生間のコミュニケーションの活性化やスポーツに親しむ態度を学習し運動を通じた健康の維持増進を理解する。
授業計画	<p>第1回 ストレッチングと有酸素運動（ウォーキング速度の設定）</p> <p>第2回 ストレッチングと有酸素運動（個人毎に設定した速度で ウォーキング）</p> <p>第3回 ストレッチングと有酸素運動（ウォーキングとジョギング）</p> <p>第4回 音楽に合わせた全身運動（動きの確認と低強度運動）</p> <p>第5回 音楽に合わせた全身運動（低強度運動と中強度運動）</p> <p>第6回 トレッドミル装置を用いた有酸素運動（ウォーキング速度の設定）</p> <p>第7回 トレッドミル装置を用いた有酸素運動（個人毎に設定した 速度でウォーキング）</p> <p>第8回 トレッドミル装置を用いた有酸素運動（ウォーキングと ジョギング）</p> <p>第9回 自転車エルゴメーターを用いた有酸素運動（運動負荷設定）</p> <p>第10回 自転車エルゴメーターを用いた有酸素運動（個人毎に設定した負荷で運動）</p> <p>第11回 器具を使った筋力トレーニング（負荷調整の習得）</p> <p>第12回 器具を使った筋力トレーニング（個人毎に設定し負荷で運動）</p> <p>第13回 バランスボールを用いた運動（個人で行う運動）</p> <p>第14回 バランスボールを用いた運動（グループで行う運動）</p> <p>第15回 自重負荷を用いた筋力トレーニング</p>
成績評価・方法	レポート：50%、態度（理由、報告のない欠席、途中入退室等）：50%
授業概要	有酸素運動や筋力トレーニング、ストレッチングなどのフィットネストレーニングの技術を習得していく。講義期間を通して、自らの体調チェックや体力レベルを維持・増進したりできる手段を身につける。
実務経験及び授業の内容	様々な自治体での運動教室やスポーツ指導、山形県スポーツ医科学推進会議委員、山形県トレーナー協会理事などでの経験を生かし体育実技 I の授業を行う。
時間外学習	自分ができない技術やグループでの打ち合わせが必要であれば適宜行う。
教科書	必要な資料は授業時に配布する。
参考文献	
履修条件	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択必修
担当教員			
加藤 守匡			
基盤教育群	保健体育		授業形態：実習

授業のテーマ及び到達目標	球技やラケット競技などの個人スポーツ、チームスポーツ、ニュースポーツなど様々なスポーツを行う。各種目の最初では、ルール説明などを行い種目毎の特性を理解する。また、練習やゲームなどを通して身体を動かすことの楽しさやこれまでに経験したことの無いスポーツについて学習する。
授業計画	<p>第1回 インディアカ（種目の理解と練習及び試合）</p> <p>第2回 インディアカ（複数のチームを作り試合）</p> <p>第3回 ソフトバレーボール（種目の理解と練習及び試合）</p> <p>第4回 ソフトバレーボール（チームの中で連携した動きを習得し試合での応用を目指す）</p> <p>第5回 ソフトバレーボール（複数のチームを作り試合）</p> <p>第6回 フットサル（種目の理解と練習及び試合）</p> <p>第7回 フットサル（チームの中で連携した動きを習得し試合での応用を目指す）</p> <p>第8回 フットサル（複数のチームを作り試合）</p> <p>第9回 バスケットボール（種目の理解と練習及び試合）</p> <p>第10回 バスケットボール（チームの中で連携した動きを習得し試合での応用を目指す）</p> <p>第11回 バスケットボール（複数のチームを作り試合）</p> <p>第12回 卓球（基本的技能の習得）</p> <p>第13回 卓球（複数の対戦相手を設定し試合）</p> <p>第14回 バドミントン、テニス（基本的技能の習得）</p> <p>第15回 バドミントン、テニス（複数の対戦相手を設定し試合）</p>
成績評価・方法	レポート：50%、態度（理由、報告のない欠席、積極性等）：50%
授業概要	球技やラケット競技などの個人スポーツ、チームスポーツ、ニュースポーツなど様々なスポーツを行う。各種目の最初では、ルール説明などを行い種目毎の特性を理解する。また、練習やゲームなどを通して身体を動かすことの楽しさやこれまでに経験したことの無いスポーツについて学習する。
実務経験及び授業の内容	様々な自治体での運動教室やスポーツ指導、山形県スポーツ医科学推進会議委員、山形県トレーナー協会理事などでの経験を生かし体育実技Ⅱの授業を行う。
時間外学習	自分ができない技術やグループでの打ち合わせが必要であれば適宜行う。
教科書	必要な資料は授業時に配布する。
参考文献	
履修条件	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
沼山 博			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	テーマ：心理学入門 到達目標： 1) 人間の感覚や知覚の特徴について説明できる。 2) 人間の認知や学習・記憶のしくみについて説明できる。 3) 心理学的なパーソナリティの捉え方について説明できる。また、自分のパーソナリティについての考察を深める。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 心理学とは	
	第2回	人間の感覚と知覚(1) 感覚と知覚	
	第3回	人間の感覚と知覚(2) 視覚と聴覚	
	第4回	人間の感覚と知覚(3) 味覚と嗅覚	
	第5回	高齢者の感覚と知覚(1) 高齢者の聴覚	
	第6回	高齢者の感覚と知覚(2) 高齢者の視覚	
	第7回	高齢者の感覚と知覚(3) 高齢者の味覚と嗅覚など	
	第8回	人間の情報処理のしくみ(1) 人間の情報処理のしくみ	
	第9回	人間の情報処理のしくみ(2) 記憶のしくみ	
	第10回	人間の情報処理のしくみ(3) 加齢と情報処理	
	第11回	人間の情報処理のしくみ(4) 脳と実行機能	
	第12回	パーソナリティ(1) パーソナリティの心理学的な捉え方	
	第13回	パーソナリティ(2) パーソナリティテストを体験する	
	第14回	パーソナリティ(3) 自らのパーソナリティを考える	
	第15回	まとめと試験	
成績評価・方法	期末試験60%、授業への取り組み（小レポート等）40%		
授業概要	人間の理解や支援とかかわる際に必要な心理学的知識について概述する。まず人間の知覚や情報処理のしくみや特徴について解説する。特に高齢者については詳しく取り上げる。このほか、パーソナリティテストを体験し、自分のパーソナリティについての考察を深めるとともに、心理学的なパーソナリティの捉え方について説明する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	配布資料を用いて、予習・復習すること。		
教科書	教科書は使用せず、講義資料を配布する。		
参考文献	参考文献は適宜紹介する。		
履修条件	特になし。		
備考	教材等の都合により、授業計画が変更になることがあります。提出物は締切を厳守すること。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
沼山 博			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ：コミュニケーションについての心理学的知見に触れながら、自らのコミュニケーションを振り返る到達目標：</p> <p>①人間のコミュニケーションの特徴や傾向について説明できる。 ②情報を伝達する際の留意点について説明できる。 ③言語的コミュニケーションにおける留意点について説明できる。 ④心理カウンセリングの基本的な考え方について説明できる。 ⑤マイノリティの理解についての基本的な考え方を説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 人間のコミュニケーションの特徴や傾向（1）</p> <p>第3回 人間のコミュニケーションの特徴や傾向（2）</p> <p>第4回 人間のコミュニケーションの特徴や傾向（3）</p> <p>第5回 情報伝達における留意点（1）</p> <p>第6回 情報伝達における留意点（2）</p> <p>第7回 言語的コミュニケーションにおける留意点（1）</p> <p>第8回 言語的コミュニケーションにおける留意点（2）</p> <p>第9回 言語的コミュニケーションにおける留意点（3）</p> <p>第10回 心理カウンセリングの考え方を通して学ぶ（1）</p> <p>第11回 心理カウンセリングの考え方を通して学ぶ（2）</p> <p>第12回 心理カウンセリングの考え方を通して学ぶ（3）</p> <p>第13回 マイノリティ理解を通して人間理解を考える（1）</p> <p>第14回 マイノリティ理解を通して人間理解を考える（2）</p> <p>第15回 まとめと試験</p>
成績評価・方法	期末試験60%、授業への取り組み（小レポート等）40%
授業概要	人間とかかわる際に必要なコミュニケーションに関する基本的知識について、主として心理学的知見を通して理解する。取り上げる内容は、①人間のコミュニケーションの特徴や傾向、②情報伝達の際の留意点、③言語的コミュニケーションにおける留意点、④心理カウンセリングの基本的な考え方、⑤マイノリティ理解を通して人間理解を考える、の5項目である。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	配布された資料を用いて、復習を行うこと。ふりかえり課題がある場合はそれを行うこと。
教科書	教科書は使用しない。講義で適宜資料を配布する。
参考文献	講義内で紹介する。
履修条件	特になし。
備考	講義のなかで実際に人とかわる場面があるので、その点に留意して履修すること。提出物は締切を厳守すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2・3・4	2	選択
担当教員			
中川 恵			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	社会学の基礎的な用語と考え方を理解する。 自分の考えや経験を論理的な文章として叙述・説明する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス（学習目標と方針の共有／Teamsの基本動作確認／【読解】はじめに）</p> <p>第2回 【読解】食研究の原則とパラドクス</p> <p>第3回 【調べ学習】食研究の原則とパラドクス</p> <p>第4回 【読解】食とアイデンティティー包摂と排除ー</p> <p>第5回 【読解】スペクタクルとしての食ー豪華ディナーと過酷な労働ー</p> <p>第6回 【調べ学習】食とアイデンティティー包摂と排除ー／スペクタクルとしての食ー豪華ディナーと過酷な労働ー</p> <p>第7回 【読解】栄養と健康一体によくてもおいしくない？ー</p> <p>第8回 【読解】ブランド化とマーケティングー消費者主権と企業の影響力ー</p> <p>第9回 【調べ学習】栄養と健康一体によくてもおいしくない？／ブランド化とマーケティングー消費者主権と企業の影響力ー</p> <p>第10回 【読解】工業化される食ー安価な食べ物に隠れたコストー</p> <p>第11回 【読解】グローバル・フードー複雑化する食品供給網ー</p> <p>第12回 【調べ学習】工業化される食ー安価な食べ物に隠れたコストー／グローバル・フードー複雑化する食品供給網ー</p> <p>第13回 【読解】食糧アクセス問題ー余剰と不足が同時に起きている</p> <p>第14回 【読解】食と社会変化ー新たな価値を求めてー</p> <p>第15回 【調べ学習】食糧アクセス問題ー余剰と不足が同時に起きている／食と社会変化ー新たな価値を求めてー</p>
成績評価・方法	レポート課題（調べ学習の実施内容）：60%、各回講義への参加（コメントの提出）：40% 本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用した課題や質問Formsへの回答の提出によって、学修内容を深めます。
授業概要	テキスト内容を理解し、課題を設定してレポートを作成します。 関連する話題や自分が関心をもった事象について意見交換するので、記録と簡単なレビューを残しておくことをおすすめします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	60分程度 例) テキストの該当箇所を事前に読み、理解できなかった箇所について質問をリストアップする。 例) 関連するテーマからさらに関心をもった事柄について「調べ学習のテーマ」として提案できるように準備する。 例) 講義内に決めたテーマに沿って情報収集し、レポートを作成する。
教科書	エイミー・グプティル/デニス・コプルトン/バツィ・ルーカル/伊藤茂 訳、2016、『食の社会学ーパラドクスから考えるー』NTT出版（定価：3,080円） ISBN：978-4-7571-4339-5 ・テキストのいくつかの章ごとにレポート課題の提出を課しますので、授業に際してはテキストの用意が必須です。購入方法については最初の授業で説明します。
参考文献	・篠澤和久・松浦明宏・信太郎・文景楠、2020、『はじめての論理学ー伝わるロジカル・ライティング入

	<p>門』有斐閣ミネルヴァ（定価 1,980円）ISBN 978-4-641-15081-2 ・宮内泰介・上田昌文、2020、『実践 自分で調べる技術』岩波新書（定価968円）ISBN 978-4-004-31853-8</p>
履修条件	
備考	<p>・授業計画に示したテーマは進度や受講生の関心によって若干変更になることがあります ・課題のテーマは基本的に受講生の関心に沿って話し合ってから決定します。参考までにテキストにおいて提案されているトピックを示します。 課題のテーマ例) これまでで最高の食事とはどんなものか？なぜそうなのか考えてみよう／儀礼的な食事を扱った映画・小説・ドラマ・ドキュメンタリーを見てみよう。どんな食べ物がどのように料理され、誰が参加しているのか／国際大食い競技連盟のウェブサイトで紹介されている参加者のプロフィールと記録のリストを見てみよう／エスニックフードの缶詰や袋詰めを持ち寄り、その品目やラベルについて簡単に説明しよう。一番本物らしくないのはどれか／地域の食べ物について議論しよう。地元の人と外部の人は、それぞれどのようにとらえているか ほか</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2・3・4	2	選択
担当教員			
安部 貴洋			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ：教育に関する基本的概念、教育史・教育思想、現代の教育</p> <p>到達目標：</p> <p>(1)教育の基本的概念を説明できる。</p> <p>(2)教育思想とその歴史的展開を説明できる。</p> <p>(3)現代の教育制度・カリキュラム・教育評価等を説明できる。</p> <p>(4)現代の教育課題と課題に対する自分の考えを述べることができるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 授業概要と授業計画 教育学とは何か</p> <p>第2回 教育と子ども 教育の概念と近代的孩子観の誕生とその変遷</p> <p>第3回 学校とは何か 学校の起源、近代学校の成立とその特徴</p> <p>第4回 教育の思想と歴史①近代以前 ソクラテス、プラトンなど</p> <p>第5回 教育の思想と歴史②近代以降 ルソー、ペスタロッチ、デューイなど</p> <p>第6回 教育の思想と歴史③日本における教育思想 幕末、戦前の教育とその歴史的展開</p> <p>第7回 学ぶということ 一斉授業の起源とその歴史的展開、「学び」の現在</p> <p>第8回 教育の制度 日本の教育制度とその歴史的展開、学校系統図</p> <p>第9回 教育課程 カリキュラムの定義、子どもの生活とカリキュラム</p> <p>第10回 教育評価 教育評価の定義、教育評価の歴史的展開と近年の動向</p> <p>第11回 特別支援教育 特別支援教育の理念と歴史</p> <p>第12回 現代教育の課題① いじめ、不登校、自殺等</p> <p>第13回 現代教育の課題② 子ども虐待、体罰等</p> <p>第14回 諸外国の実践 シュタイナー、レッジョ・エミリアなど</p> <p>第15回 理解の確認と総括</p>
成績評価・方法	テスト40%、レポート 40%、発表 20%
授業概要	<p>授業は、教育に関する基本的概念、教育史と教育思想、現代の教育の三部から構成されている。第2回から第3回の授業において「教育とは何か」等の問いを中心に教育に関する基本的概念を理解する。第4回から第7回までの授業において、ソクラテスやプラトン等の教育思想とその歴史的展開を理解する。第8回の授業以降、現代日本における教育制度・カリキュラム・教育評価等を理解する。また、「いじめ」や不登校といった教育課題に対する様々な考えを理解し、自分の考えをまとめる。</p> <p>授業では適宜グループワークを行う。授業毎に「まとめ」を行い、質問・感想等を提出する。レポート課題を3回程度課す。提出された質問・感想とレポートは履修者の学びを深めるために授業で紹介するとともに、コメントを付して返却する。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業後に配布資料をもとに講義内容を整理するとともに、さまざまなメディアをとおして学びを深めること。
教科書	使用しない。適宜、授業資料を配布する。
参考文献	<p>田中智志・今井康雄編『キーワード 現代の教育学』（東京大学出版会、2009年）</p> <p>木村元・小玉重夫・船橋一男 [著] 『教育学をつかむ』（有斐閣、2009年）</p> <p>教育思想史学会 [編] 『教育思想事典 増補改訂版』（勁草書房、2000年）</p>
履修条件	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2・3・4	2	選択
担当教員			
堀田 学			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>〈授業のテーマ〉 日本国憲法は、人権と統治に分かれます。人権では、「表現の自由」や「社会権」などの問題に関連し、統治では国会や内閣、裁判所がその対象となります。憲法は遠い存在のように思えますが、実は身近な事象に関連するものでもあります。この講義では、日本国憲法の全体像をとらえ、自ら考え、答えを導けるようになることをめざします。</p> <p>〈到達目標〉 1. 日本国憲法の構造を理解する。 2. 憲法の規定に則って統治機構が動いていることを理解する。 3. 人権概念を理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 憲法の基礎</p> <p>第2回 参政権</p> <p>第3回 国会</p> <p>第4回 内閣</p> <p>第5回 裁判所</p> <p>第6回 象徴天皇制</p> <p>第7回 平和主義</p> <p>第8回 人権総論 1（人権の理念と歴史）</p> <p>第9回 人権総論 2（人権の享有主体性）</p> <p>第10回 信教の自由と政教分離</p> <p>第11回 表現の自由</p> <p>第12回 経済的自由</p> <p>第13回 人身の自由</p> <p>第14回 社会権</p> <p>第15回 幸福追求権</p>
成績評価・方法	期末試験(90%)、DVD視聴の感想・意見(10%)
授業概要	日本国憲法は、最高法規であるため様々な法律にもその理念が活かされています。日本国憲法は、身近な生活にもその理念は活かされています。この授業では、日本国憲法の意義と課題について考えていきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	配布したレジュメ等を授業が終わってから見直し、知識の定着を図ること。また、新聞やニュースを毎日チェックし、社会の動きに敏感になること。
教科書	駒村圭吾編『プレステップ憲法(第3版)』弘文堂、2021年 1980円 ISBN 9784335001536
参考文献	
履修条件	
備考	

講義科目名称：経営学概論(60561)

授業コード：60561

英文科目名称：Introduction of Business Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2・3・4	2	選択
担当教員			
高浜 快斗			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>私たちが日常生活を営む上で、企業という存在は大きな役割を果たしている。その企業について理解を深めるために求められる基礎的な知識や能力を身に付けることが本講義のテーマである。すなわち、本講義は経営学の初学者に向けた導入科目として位置付けられる。</p> <p>経営学の基礎的な概念について学修することにより、1. 経営学や実社会で用いられる用語や理論について理解して説明することができる、2. 学修した用語や理論を用いて実社会の企業活動について理解して説明することができる、3. 実社会の企業活動について理解した上で自分自身の初期的なキャリアデザインを描くことができる、という能力を身に付けることが本講義における到達目標である。</p>
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 経営学の全体像：学説史に基づいた学問領域の俯瞰</p> <p>第3回 企業と社会：株式会社におけるカネと会社機関</p> <p>第4回 企業とインプット市場との関わり：金融資本市場や労働市場との関わり</p> <p>第5回 企業とアウトプット市場との関わり：製品・サービス市場との関わり</p> <p>第6回 競争戦略のマネジメント(Part.1)：「選ばれる」を創り上げるプロセス</p> <p>第7回 競争戦略のマネジメント(Part.2)：違いを創るジェネリック戦略の枠組み</p> <p>第8回 多角化戦略のマネジメント：多角化、M&A、戦略的提携の基本的な考え方</p> <p>第9回 国際化のマネジメント：企業活動の地理的な拡がり</p> <p>第10回 マクロ組織のマネジメント：組織構造のバリエーションとブレイクスルーを生み出す仕組み</p> <p>第11回 ミクロ組織のマネジメント：組織と個人間におけるモチベーション論的な枠組み</p> <p>第12回 キャリアデザイン：能力形成および人生とキャリアのデザイン</p> <p>第13回 経営学の汎用性と多様性(Part.1)：ファミリービジネスのマネジメント</p> <p>第14回 経営学の汎用性と多様性(Part.2)：非営利組織のマネジメント</p> <p>第15回 総括</p>
成績評価・方法	試験(100%)
授業概要	Microsoft社のPowerPointを使用した講義形式を採用する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>〔事前学習〕 テキストの指定箇所を熟読した上で、用語や理論を事前に確認すること(各回1時間程度)。</p> <p>〔事後学習〕 テキストや配布されたレジュメ、参考文献等を用いて、講義内容を理解すること(各回1時間程度)。また、本講義に関連するWeb上の記事やYouTubeなどを含む動画等のデジタルな情報、新聞や書籍等のアナログな情報の双方をできる限り活用・閲覧することが好ましい。</p>
教科書	加護野忠男・吉村典久編(2021)、『1からの経営学(第3版)』中央経済社。
参考文献	青島矢一(2022)、『はじめての経営学 経営学入門』東洋経済新報社。 伊丹敬之・加護野忠男(2022)、『ゼミナール経営学入門(新装版)』日経BP(日本経済新聞出版本部)。 武石彰(2021)、『経営学入門』岩波書店。 藤田誠(2015)、『ベーシック+ 経営学入門』中央経済社。
履修条件	
備考	講義の進捗状況等によっては、シラバスの内容を柔軟に変更する可能性がある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3・4	2	選択必修
担当教員			
村瀬 桃子			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	この授業の目的は、自分と異なる文化を持つ人たちと比較するため、まず①各自の生まれた地域の文化について再確認することである。その上で、②異なる文化・価値観をもつ他者と、共生するためには何が大切なのかを考えたい。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 15回の授業内容や、中間発表(生まれ育った地域の文化の紹介)と最終発表(受講者が関心をもって いることに関連する新聞記事を選び、要約し、自身の見解を述べる)についての説明を行う。	
	第2回	日本の中の異文化(1)ある小学校では… 日本にいる外国ルーツの子どもたちが抱える様々な問題について知る。	
	第3回	日本の中の異文化(2)ある朝鮮学校では… 日本にルーツを持たない子どもたちの中には、朝鮮半島にルーツを持つ子どもも多い。朝鮮学校に通う子どもたちの日常から、どのような問題があるか知る。	
	第4回	アイヌ・沖縄 日本にも、本土と異なる文化を持つ人たちがいる。アイヌの人たちや沖縄の人たちが抱える問題を知る。	
	第5回	日本における性的マイノリティの問題① 外国ルーツの子どもたちも、アイヌや沖縄も、「少数者」ゆえの問題という側面がある。多数派の人たちが見ている世の中と、少数派である人たちが見ている世の中は、見え方が違う。性的少数者の視点を通して、今の社会の問題を考える。日本における性的マイノリティの問題は何かを知る。また、中間発表①を行う。	
	第6回	日本における性的マイノリティの問題② 性同一性障害であり身体障がいでもある(ダブルマイノリティー)方のドキュメンタリーを通して、少数派の中の少数派の問題を知る。また、中間発表②を行う。	
	第7回	カナダの多文化主義の教育 カナダは多文化主義教育を積極的に行っている。今まで見てきた日本の状況と比較する。また、中間発表③を行う。	
	第8回	タイの性的マイノリティ タイのある学校における性的マイノリティの生徒への取り組みを知る。また、中間発表④を行う。	
	第9回	女性の問題① マララ・ユスフザイさんらの活動等を通して、過酷な状況にある女性の現状を知り、これら女性に対する支援や自立への取り組みについて知る。また、中間発表⑤を行う。	
	第10回	女性の問題② パキスタン等の国や地域の一部に残っている「名誉殺人」の問題を中心に、女性の人権問題について知る。また、中間発表⑥を行う。	
	第11回	女性の問題③ 主にアフリカ大陸の女性たちの問題(女性性器切除)を知る。	
	第12回	ジェンダー今昔 近代以降、日本では「子育ては母親がするもの」という考え方が広まるが、それ以前の江戸時代はどうだったのか。歴史をさかのぼってみていくと、同じ日本でも全く異なった文化や考え方があったことを知る。	
	第13回	発表① 今までで興味をもった内容や、新たに疑問に思ったことなどに近い内容の新聞記事を選び、パワーポイントで発表する(個人発表)。	
	第14回	発表② 今までで興味をもった内容や、新たに疑問に思ったことなどに近い内容の新聞記事を選び、パワーポイントで発表する(個人発表)。	
	第15回	発表③ 今までで興味をもった内容や、新たに疑問に思ったことなどに近い内容の新聞記事を選び、パワーポイントで発表する(個人発表)。	
成績評価・方法	発表(2回分で50%)、毎回の感想(30%)、レポート(20%)で評価する。		
授業概要	異なる文化を持つ者の「生の声」をなるべく聞くため、ほぼ毎回ドキュメンタリー番組等の映像資料を用いる。また「異文化理解」とは何かを考えるため、発表を2回行う(なお、授業計画の第5～10回の半分の時間は個人発表にあて、第13～15回は発表の時間とする。)		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	自分の生まれ育った地域の文化について、調べておく。また、国内外の「異文化」について、日頃から新聞等で関心を持って見聞きすること。		
教科書	教科書は使用しない。		
参考文献	参考文献等は、その都度紹介する。		

講義科目名称：国際関係論（60580）

授業コード：60580

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3・4	2	選択必修
担当教員			
堀田 学			
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>〈授業のテーマ〉 この講義では、政治・経済・社会など多面的な側面から世界で起こっている様々な事象を理解し、考察できるようになることをめざします。</p> <p>〈到達目標〉 1. 国際関係論の理論を理解する。 2. グローバルな課題を理解する。 3. 国際問題を理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 国際関係論とは何か</p> <p>第2回 20世紀の国際関係 1（2つの世界大戦と国際関係）</p> <p>第3回 20世紀の国際関係 2（冷戦時代の国際関係）</p> <p>第4回 20世紀の国際関係 3（ポスト冷戦時代の国際関係）</p> <p>第5回 現代の国際関係(9・11以降の国際関係)</p> <p>第6回 国際関係理論 1（リアリズム）</p> <p>第7回 国際関係理論 2（リベラリズム）</p> <p>第8回 国際機関</p> <p>第9回 欧州統合</p> <p>第10回 民族紛争・宗教対立</p> <p>第11回 環境問題</p> <p>第12回 食糧問題</p> <p>第13回 安全保障</p> <p>第14回 日本外交</p> <p>第15回 これからの国際関係</p>
成績評価・方法	期末試験(70%)、DVD視聴の感想・意見(30%)
授業概要	現代の国際社会は、グローバル化が進行する一方で、反グローバル化の動きやポピュリズムの台頭なども世界各地で起こっています。この授業では多角的な視座から世界を見ることができるよう知識を得ることを目標とします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	新聞やニュースを毎日チェックし、国際問題に関する知識を深め、関心を持ってください。
教科書	
参考文献	佐渡友哲・信夫隆司編『国際関係論(第3版)』弘文堂、2018年 村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ(第3版)』有斐閣、2023年 小原雅博『大学4年間の国際政治学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA、2021年
履修条件	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期（集中）	1	2	必修
担当教員			
熊田 薫			
教養教育群	人間と自然		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	生物学および進化の視点から微生物を理解する。次に食との関わりにおいて微生物を理解する。すなわち、発酵食品など有用な微生物、感染症や食中毒など有害な微生物について理解することを目指す。また、微生物性食中毒など食品衛生学を学ぶための基本的知識を提供する。		
授業計画	第1回	地球史における生命の起源と微生物について考える	
	第2回	微生物研究の歴史 微生物の発見から今日に至る微生物研究の歴史について考える	
	第3回	微生物の分類 真正細菌、古細菌、真菌、原生動物、ウイルスなどについて分類学上の位置	
	第4回	真正細菌と古細菌 その進化と分類学上の位置および真核生物のとの関係	
	第5回	真菌の種類と分類、原生動物の特徴と分類 いわゆるカビ、コウボおよびキノコの分類と生態	
	第6回	感染症法、新興感染症	
	第7回	ウイルスとはなにか ウイルスの構造、遺伝子、宿主、増殖の特性等	
	第8回	微生物の生態 微生物の多様な生息領域、環境および他の生物との関連	
	第9回	地球環境と微生物 光合成微生物による酸素の産生と地球環境の変動および他の生物との関連	
	第10回	細菌と食品、疾病 細菌を利用した発酵食品の概論および細菌による疾病概論	
	第11回	真菌と食品、疾病 真菌を利用した発酵食品の概論および細菌による疾病概論	
	第12回	ウイルスと疾病 ウイルスによる疾病と特徴	
	第13回	トピックスⅠ RNAワールド、covid-19、進化生物学におけるRNAの役割について	
	第14回	トピックスⅡ 納豆を作る細菌（枯草菌）の特徴と納豆の特徴について	
	第15回	まとめ：全体のまとめおよび微生物に関するその時々話題を取り上げ、微生物学の見地から考える	
成績評価・方法	試験（100%）		
授業概要	生命の起源と微生物、一般微生物学、発酵食品と微生物、および感染症・食中毒と微生物をテーマとして全体を構成する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	必要に応じ基礎的な学習（高校の生物・科学）を復習すること。		
教科書	新版改訂 微生物と免疫 林修著 建帛社 ISBN 978-4-7679-0685-0		
参考文献	ブラック微生物学第3版(原書8版)、林英生他訳 ISBN 978-4-621-08813-5		
履修条件			
備考			

講義科目名称：自然科学 I（化学）（60620）

授業コード：60620

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
大益 史弘			
教養教育群	人間と自然		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	原子、分子、電子レベルの世界を学習し、物質の構造・性質について理解し、その上で物質同士の相互作用に関わる化学結合、化学変化（化学反応）のメカニズムについて学ぶ。さらに、様々な機能を有する有機化合物を主に取り上げ、その構造、反応、多様性について学ぶ。		
授業計画	第1回	物質の構成要素と原子の構造	
	第2回	元素の周期律と物質量	
	第3回	化学結合	
	第4回	液体と溶液の濃度	
	第5回	気体	
	第6回	化学反応と化学平衡	
	第7回	化学熱力学	
	第8回	酸・塩基と中和	
	第9回	酸化還元反応	
	第10回	無機化学	
	第11回	有機化学	
	第12回	高分子化合物	
	第13回	高分子化合物演習	
	第14回	環境と化学	
	第15回	環境化学演習	
成績評価・方法	テスト40%、レポート40%、授業への参加度20%		
授業概要	自然科学の一分野である化学は日常生活に非常に関わりの深い学問である。ここでは、ミクロな世界からマクロな世界に至る物質の世界を軸に段階的に学習する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「化学基礎」の教科書に目を通しておくこと。 ・物質を原子や分子レベルで理解できるようにしておくこと。 		
教科書	資料を適宜配布		
参考文献			
履修条件			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
佐塚 正樹			
教養教育群	人間と自然		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	管理栄養士は人という「生物」を相手にしているので生物学の知識は必須である。そこで本講義では、高校時代、生物を選択しなかった学生でも理解でき、これから学ぶ栄養学の助けになるように細胞、組織、器官、器官系、個体の生物学および生理・生化学を中心に教授する。選択科目ではあるが、非常に重要な基礎科目なので高校時代、生物を選択したしなないに関わらず、全員の履修をお勧めしたい。
授業計画	<p>第1回 管理栄養士と生物学のかかわり 管理栄養士と生物学のかかわりを概説し、生物を定量的に捉える数学的な考え方も概説したい。</p> <p>第2回 細胞の種類と細胞内小器官 全ての生命は細胞が生きる単位であり今後学ぶ栄養学に必要な知識の細胞について解説する。</p> <p>第3回 単細胞生物、多細胞生物およびウイルス 単細胞生物、多細胞生物とウイルスを分類する。この回は生理学と解剖学の基礎知識にもなる。</p> <p>第4回 生命体に必須の物質 管理栄養士に必要な化学物質：五大栄養素と水について解説する。</p> <p>第5回 遺伝子の構造と機能 「体質」は遺伝的特徴である。分子生物学と古典的遺伝学(メンデルの法則)の基礎を解説する。</p> <p>第6回 生体エネルギー①解糖系・クエン酸回路・電子伝達系 なぜ我々は、生きていられるのか？管理栄養士の必須学問：代謝生化学の基礎知識を教授する。</p> <p>第7回 生体エネルギー②代謝側路 ヒトの解糖系・クエン酸回路・電子伝達系以外の代謝側路の重要性と役割を紹介する。</p> <p>第8回 生命エネルギー③酵素の役割 グルコースや脂肪酸がエネルギーになるのは理解できたとして、一つ一つの反応はどう進むのか？グルコースの塊≒木は火がつくと酸化する(燃焼反応)。しかしヒトは酵素(生体触媒)のおかげで、燃焼反応と同等の酸化が37℃(体温)で可能である。その酵素の解説を行う。</p> <p>第9回 光合成と窒素同化 植物系の微生物から草花・木々が有する光合成と窒素同化の仕組みを紹介する。</p> <p>第10回 細胞分裂とがん 細胞は細胞分裂が行える。細胞分裂の仕組みと細胞の異常増殖(がんなど)の基礎知識を学ぶ。</p> <p>第11回 生殖 細胞分裂を理解したところで、生殖の基礎を学ぶ。主にヒトの生殖を解説する。</p> <p>第12回 ホメオスタシスの基礎① ヒトを中心にホメオスタシスを解説する。この回は生理学の基礎知識となる。</p> <p>第13回 ホメオスタシスの基礎② エネルギー論と材料論について論じる。</p> <p>第14回 免疫 食物アレルギーを理解する上で必要なヒトの免疫について参考書籍を紹介して概説する。</p> <p>第15回 生命倫理と総まとめ バイオテクノロジー時代の生命倫理を概説する。そして本講義の総まとめを行う。</p>
成績評価・方法	テスト80%，授業態度・レポート20%
授業概要	管理栄養士は内科医相当の生化学・生理学の知識が必要なので、生化学・生理学を理解するための基礎知識を本講義で教授する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	将来の生化学・生理学・栄養学の勉強の助けになるように本学図書館電子書籍Ya-Sa-Shi-I biological Science (本講義教科書：やさしい基礎生物学第2版English ver)を参考に英語(専門用語や図表、前置詞)になれることを推奨します。
教科書	南雲保編著、やさしい基礎生物学第2版羊土社
参考文献	①Trudy McKee/James R. McKee(著)福岡伸一(翻訳)マッキー生化学 一分子から解き明かす生命―第6版 化学同人 ②河本宏著、マンガでわかる免疫学、オーム社 ③武村政春著、マンガでわかる生化学、オーム社 以上3冊は、すべて本学図書館電子書籍で閲覧可能
履修条件	
備考	

講義科目名称：自然科学演習（60640）

授業コード：60640

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択
担当教員			
大益 史弘			
教養教育群	人間と自然		授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	主に生物化学を背景とした演習によって自然現象を理解し、創造力を育成する。実際に我々の身の回りで日常的に起こっている自然現象を中心に引き上げ、それらの出来事を自然科学的に捉え、さらには説明することができることを目標とする。		
授業計画	第1回	物質の三態演習（液体）	
	第2回	物質の三態演習（固体）	
	第3回	物質の三態演習（気体）	
	第4回	軟水と硬水	
	第5回	カルシウムとマグネシウム	
	第6回	水質検査（硬度）	
	第7回	酸化還元反応演習（銅と銀）	
	第8回	酸化還元反応演習（鉄と銅）	
	第9回	酸化還元反応演習（化学電池）	
	第10回	高分子化合物演習（炭水化物）	
	第11回	高分子化合物演習（塩酸による糖化）	
	第12回	高分子化合物演習（アミラーゼ）	
	第13回	環境化学演習（空気）	
	第14回	環境化学演習（環境水）	
	第15回	環境化学演習（飲料水）	
成績評価・方法	レポート80%、授業への参加度20%		
授業概要	化学および生物学の内容をよく理解した上で、さらなる基本的知識と応用力を習得しながら、予測した結果を得て考察する自然科学を探求するためのプロセスの一部を経験する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 物質の生化学的な事象に関心を持つこと。 「化学基礎」の教科書や参考書等に目を通しておくこと。 授業で出てきた重要な物質について覚えるようにする。 		
教科書	資料を適宜配布		
参考文献			
履修条件			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択
担当教員			
伊豆田 義人			
教養教育群	人間と自然		授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	本講義では、定量的な分析の基礎となる統計理論を学習し、記述統計および推測統計の両方を利用できる能力を養うことを目的とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス・データの種類、記述統計学と推計統計学</p> <p>第2回 量的データのまとめ方・度数分布表・ヒストグラム</p> <p>第3回 ヒストグラムと統計量（平均・中央値・最頻値・分散・標準偏差）</p> <p>第4回 四分位範囲，箱ひげ図</p> <p>第5回 確立の基本的な事項</p> <p>第6回 離散型確率変数と確率分布</p> <p>第7回 連続型確率変数と確率密度関数</p> <p>第8回 正規分布と標準正規分布</p> <p>第9回 母集団と標本</p> <p>第10回 カイ二乗分布，F分布</p> <p>第11回 t分布，大数の法則，中心極限定理</p> <p>第12回 そのほかの確率分布</p> <p>第13回 区間推定・その1</p> <p>第14回 区間推定・その2</p> <p>第15回 まとめの問題3</p>
成績評価・方法	<p>【以下の（1）から（6）の合計点】</p> <p>（1）ノート：10%（第14週に回収して点検する。）</p> <p>（2）出席：7%（公欠を除き，1回欠席または遅刻につき0.5%減点）</p> <p>（3）平常点：2%（携帯電話等の無許可使用や授業とは関係のない活動=0%）</p> <p>（4）授業課題：10%（未提出または未完成課題が一つ以上の場合は0%とする。）</p> <p>（5）まとめの課題：21%</p> <p>（6）期末試験：50%</p>
授業概要	テーマとなる統計の概念を学習した後，実際に簡単な数値を利用して統計処理の練習を行う予定です。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本科目では，1.5時間の事前学習，3時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって，合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている。ただし，この科目では社会で求められている知識とスキルの習得を目的としているのでこの合計時間は最低時間数である。
教科書	授業で指定する。
参考文献	指定しない（授業中に適宜資料を配布する）。その都度，授業内容に適した参考書を指定する。
履修条件	1回目には簡単なガイダンスを行うが，その日から本題に入るのので，受講される人は，授業ノートや筆記用具を持参して，通常の授業を受ける心構えに出席してください。
備考	電卓（ルート必須）・テキストを利用します。 TeamsおよびClassNoteBookを利用します。